

令和 7 年用かぼちゃ・だいこん病害虫防除基準

※殺虫剤を散布する場合は、訪花昆虫に対する薬剤ごとの安全使用基準を徹底する。

発行：J A さ が え 西 村 山
さがえ西村山野菜振興協議会

かぼちゃ

防除時期	対象病害虫名	RAC	防 除 方 法〔収穫前使用日数／使用回数〕				注 意 事 項
定植時	ネキリムシ類	1B	ダイアジノン粒剤 5（4～6 kg／10 a）〔は種時又は定植時／2 回以内〕を全面土壌混和、又は作条土壌混和する。				
	アザミウマ類	4A	アドマイヤー 1 粒剤〔定植時／1 回〕 2 g／株を植穴土壌混和する。				1. 茎葉、根に薬剤が直接触れないように注意する。
生	疫 病	UN,M3 P7	ペンコゼブ水和剤 600倍 (16.6 g／10 ℓ)〔21日前まで／2 回以内〕 アリエッティ水和剤 800倍 (12.5 g／10 ℓ)〔前日まで／3 回以内〕	のいずれかを10 a 当たり 100～300 ℓ 散布する。			1. 排水をよくする。 2. 発病すると有効な薬剤がないため予防散布に努める。
	褐斑細菌病	M1	コサイド3000 2,000倍（5 g／10 ℓ）〔－／－〕を10 a 当たり100～300 ℓ 散布する。				1. 魚類に強い影響を及ぼす恐れがあるので、特に注意する。 2. 収穫間際の使用は汚れを生じるので留意する。
育	べ と 病	M5 M5,40 11	ダコニール1000 1,000倍 (10 ml／10 ℓ)〔7 日前まで／3 回以内〕 プロボーズ顆粒水和剤 1,000倍 (10 g／10 ℓ)〔7 日前まで／3 回以内〕 ストロビーフロアブル 3,000倍 (3.3 ml／10 ℓ)〔前日まで／3 回以内〕	のいずれかを10 a 当たり 100～300 ℓ 散布する。			1. ストロビーフロアブルはおうとうに薬害があるので、飛散しないように注意する。また浸透性を高める効果のある展着剤を使用すると薬害の恐れがあるので展着剤は加用しない。 2. ストロビーフロアブルは耐性菌出現防止のため連用は避け、総使用回数は 2 回以内とする。 3. プロボーズ顆粒水和剤は疫病にも登録がある。
		M1 M1	コサイド3000 2,000倍（5 g／10 ℓ）〔－／－〕 Z ボルドー 500倍 (20 g／10 ℓ)〔－／－〕	のいずれかを10 a 当たり 100～300 ℓ 散布する。			
	うどんこ病	M7 3 3	ベルクート水和剤 1,000倍 (10 g／10 ℓ)〔7 日前まで／4 回以内〕 トリフミン水和剤 5,000倍 (2 g／10 ℓ)〔前日まで／5 回以内〕 スコア顆粒水和剤 2,000倍 (5 g／10 ℓ)〔3 日前まで／3 回以内〕	のいずれかを10 a 当たり 200～300 ℓ 散布する。			1. E B I 剤（トリフミン水和剤、スコア顆粒水和剤など）は耐性菌出現防止のため、総使用回数は 2 回以内とする。
		アブラムシ類〔ウリハムシ〕 ハダニ類	4A 3A 1B 1B	モスピラン顆粒水溶剤㉔ 2,000倍（5 g／10 ℓ）〔前日まで／2 回以内〕 アディオン乳剤 2,000倍 (5 ml／10 ℓ)〔前日まで／5 回以内〕 マラソン乳剤 2,000倍 (5 ml／10 ℓ)〔前日まで／5 回以内〕 スミチオン乳剤 1,000倍 (10 ml／10 ℓ)〔14日前まで／3 回以内〕	のいずれかを10 a 当たり 100～300 ℓ 散布する。		

除草剤使用基準

	薬 剤 名	RAC	10 a 当り 薬量／散布量	使 用 時 期	使用方法	使用 回数	適用 雑草	特 性	農薬の使用にあたっては、使用回数に加え、有効成分ごとの総使用回数も定められているので遵守する。															
土 壌 処 理 剤	トレファノサイド粒剤25	3	2 kg	定植前（植穴掘前）（マルチ前）	全面土壌 散布	2 回 以内	一年生 雑草	・トンネル・マルチ栽培に限る。但し、マルチをしないトンネル栽培ではガス化による薬害の恐れがあるので使用しない（気化しやすい）。 ・ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科には効果がない。	<table><tr><th>成分名</th><th>農 薬 名</th><th>RAC</th><th>使用回数</th><th>同一成分 総使用回数</th><th>備 考</th></tr><tr><td rowspan="2">T P N</td><td>ダコニール 1000</td><td>M5</td><td>3 回以内</td><td rowspan="2">3 回以内</td><td rowspan="2"></td></tr><tr><td>プロボーズ顆粒水和剤</td><td>M5,40</td><td>3 回以内</td></tr></table>	成分名	農 薬 名	RAC	使用回数	同一成分 総使用回数	備 考	T P N	ダコニール 1000	M5	3 回以内	3 回以内		プロボーズ顆粒水和剤	M5,40	3 回以内
	成分名	農 薬 名	RAC	使用回数	同一成分 総使用回数	備 考																		
	T P N	ダコニール 1000	M5	3 回以内	3 回以内																			
プロボーズ顆粒水和剤		M5,40	3 回以内																					
	クレマート乳剤	3	200 ～ 400ml／ 100 ～ 150 ℓ	定植・マルチ前（雑草発生前）	全面土壌 散布	1 回	一年生 雑草	・ガス化しないのでトンネル・ハウス・マルチ栽培で使える																
処 理 剤 茎 葉	バスタ液剤	10	300 ～ 500ml／ 100 ～ 150 ℓ	雑草生育期：定植前又は畦間処理 （収穫 30 日前まで）	雑草茎葉 散布	2 回 以内	一年生 雑草	・非選択性、スギナに効果高い																

だいこん

防除時期	対象病害虫名	RAC	防 除 方 法		〔収穫前使用日数／使用回数〕	注 意 事 項
は 種 前	（萎 黄 病）					1. 連作を避ける。 2. 抵抗性品種を栽培する。 3. 前作にライムギ、ソルゴーなどのイネ科作物を栽培すると本病の発生を軽減できる。
	ネグサレセンチュウ	1B	ネマトリンエース粒剤（15～25kg／10 a）〔は種前／1 回〕を全面土壌混和する。			
は 種 時	ネキリムシ類 タネバエ	1B	ダイアジノン粒剤 5〔は種時／1 回〕を10 a 当たり 4～6 kg 全面土壌混和又は作条土壌混和する。			1. 薬剤を使用した場合は、間引いたものを食用にしない。 2. キスジノミハムシの多いところでは、播種時の防除を行った後、発芽後の防除を2～3 回行う。 3. ダイアジノン粒剤 5 はキスジノミハムシにも登録がある。
	キスジノミハムシ	4A 3A	スタークル粒剤 （4～6 kg／10 a）〔は種時／1 回〕	フォース粒剤 [㊞] （4 kg／10 a）〔は種時／1 回〕	のいずれかを 播溝土壌混和する。	
発 芽 期	キスジノミハムシ ハイマダラノメイガ カブラハバチ幼虫	1B	エルサン乳剤 [㊞] 1,000倍（10ml／10 ℓ）〔30日前まで／2 回以内〕を10 a 当たり100～300 ℓ 散布する。			1. ハイマダラノメイガの防除時期は、本葉 1～2 葉時と間引き終了時なので、防除時期を失しないよう早めに散布する。
生	軟 腐 病	3I	スターナ水和剤 1,000倍（10 g／10 ℓ）〔14日前まで／5 回以内〕を10 a 当たり100～300 ℓ 散布する。			1. キスジノミハムシなどの害虫の加害をうけた傷口から侵入するので、防除を徹底する。 2. 例年発生の多いところでは、野菜の連作を避ける。 3. 播種はできるだけ遅らせる。 4. 発病株は早期に抜き取り適切に処分する。
	べ と 病	M1	Z ボルドー 500倍（20 g／10 ℓ）〔－／－〕を10 a 当たり100～300 ℓ 散布する。			1. ボルドー剤は水稻（穂ばらみ期～出穂期）に薬害が出るので、飛散しないように注意する。
育	ネキリムシ類	1A	デナボン 5 %バイトを発生初期に10 a 当たり 3～6 kg〔30日前まで／4 回以内〕株元散布する。			1. 施用直後降雨にあった場合は再処理をおこなう。
	アブラムシ類 （カブラハバチ）	4A	モスピラン顆粒水溶剤 [㊞] 2,000倍（5 g／10 ℓ）〔14日前まで／1 回〕を10 a 当たり100～300 ℓ 散布する。			1. モスピラン顆粒水溶剤 [㊞] はキスジノミハムシ、コナガ、アオムシ、カブラハバチ、ダイコンサルハムシにも登録がある。 2. モスピラン顆粒水溶剤 [㊞] は蚕に対する毒性が強いので注意する。
	モザイク病		アブラムシ類の防除を徹底する。			1. 発病株は早期に抜き取り、適切に処分する。 2. 発病株に触れた手で健全株に触れない。
	ア オ ム シ ヨ ト ウ ム シ	3A 30 15	トレボン乳剤 2,000倍（5 ml／10 ℓ）〔21日前まで／3 回以内〕	プロフレア S C 2,000倍（5 ml／10 ℓ）〔前日まで／3 回以内〕	アタブロン乳剤 2,000倍（5 ml／10 ℓ）〔14日前まで／3 回以内〕	のいずれかを10 a 当たり 100～300 ℓ 散布する。
期	コ ナ ガ	28 UN	フェニックス顆粒水和剤 2,000倍（5 g／10 ℓ）〔7 日前まで／2 回以内〕	プレオフロアブル 1,000倍（10ml／10 ℓ）〔14日前まで／2 回以内〕	のいずれかを10 a 当たり 100～300 ℓ 散布する。	

除草剤使用基準

	薬 剤 名	RAC	10 a 当り薬量／散布量	使 用 時 期	使 用 方 法	使用回数	適 用 雑 草	特 性
土 壌 処 理 剤	トレファノサイド乳剤	3	150～200ml／100 ℓ	は種直後（露地栽培で登録）	全面土壌散布	1 回	一年生雑草	・トンネル・ハウス栽培ではガス化による薬害の恐れがあるので使用しない（気化しやすい）。 ・ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科には効果がない。
	ラッソー乳剤	15	150ml／100 ℓ	は種直後	全面土壌散布	1 回	一年生雑草	・イネ科、カヤツリグサ科に効果高い ・砂壤土では使用しない。
茎 葉 処 理 剤	ナブ乳剤	1	150～200ml／100～150 ℓ	雑草生育期（イネ科雑草 3～5 葉期）（収穫 14 日前まで）	雑草茎葉散布 又は全面散布	1 回	一年生イネ科雑草	・イネ科作物には薬害があるので注意する。 ・遅効性で枯死するまでに 7～10 日必要 ・スズメノカタビラには効果がない。
	バスタ液剤	10	300～500ml／100～150 ℓ	雑草生育期：は種前又は畦間処理（収穫 45 日前まで）	雑草茎葉散布	2 回以内	一年生雑草	・非選択性、スギナに効果高い
	ワンサイド P 乳剤	1	50～100ml／70～100 ℓ	雑草生育期（イネ科雑草 3～5 葉期）（収穫 45 日前まで）	雑草茎葉散布 又は全面散布	1 回	一年生イネ科雑草	・イネ科作物には薬害があるので注意する。 ・スズメノカタビラには効果がない。
	ラウンドアップマックスロード	9	200～500ml／50～100 ℓ	雑草生育期（耕起前又はは種前まで） 雑草生育期：畦間処理（収穫 5 日前まで）	雑草茎葉散布	2 回以内	一年生雑草	・非選択性 ・吸収移行型除草剤